

あさひの日だまり

NO.14

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～2学期が始まりました～

楽しい学校が始まりますように

手に荷物を下げ肩に荷物をかけそして背中に荷物を背負い汗をかきながら子どもたちが学校へ登校してきます。休みが明けて学校が始まるんじゃないかと、子どもたちが学校を始めてくれるんだと思いました。「どんな夏休みだった？」と声をかけると「先生、宿題終わってないんだよね」「眠いな～」「友だちや先生に会えるの楽しみだったんだよ」と答えてくれる子どもたちでした。どの顔も朗らかな笑顔です。

宿題をやってなくて怒られるだろうと答えてくれた子も「怒られるだろうけど先生に怒られることも含めて学校には友だちもいるしやっぱり学校が楽しいんだよな」という感じでした。そんな子どもたちの表情を見ていると私もなんだか活力が湧いてきました。「よし頑張るぞ」という気持ちになりました。この素晴らしい子どもたちのために精一杯「楽しい学校」創りに取り組まなくてはいけないと気持ちを新たにしました。職員一同力を合わせて子どもたちのために力を注いでまいります。保護者の皆様、地域の皆様85日間の2学期、色々とお世話になりますがどうぞご支援ご協力よろしくお願いいたします。

始業式で子どもたちにお話ししたことを下に記しました。子どもたちにとっては少し難しいお話になりましたが「校長の話の内容はよくわからなかったけどなんだか力を込めて一生懸命話していたな」という姿を覚えていてくれたらそれで十分嬉しいです。



大きな声で校歌の斉唱

校長先生は一昨日夢を見ました。それは、一輪車に乗ってすごいスピードでぐんぐん走っている夢です。夢の中で「やったー」と喜んでいる先生がいました。そして、この姿をみんなに見せたらすご～いと言ってくれるに違いないと思い切りニコニコしている自分がいました。やがて夢は冷めました。しばらくの間布団の上で「おれはやったぞ！乗れるようになったぞ！！」と校長先生はとても嬉しい気持ちでいました。そのうちに夢から現実の世界へ意識が少しずつ変わっていきました。やがて意識がはっきりとしたとき、前の日に体育館で練習したときの自分の姿がパッと頭に浮かびました。それは一向に上手にならない悲しい現実の姿です。「あ～夢だったのか」とがっかりしました。

ごめんなさい、一輪車の披露は先送りさせてください。夏休みの宿題を終わらせることができないまま校長先生の夏休みが終わってしまいました。「いったい何やってんだ」という悔しい気持ちと情けない気持ちでいっぱいです。

校長先生は夏休みの宿題をこれから頑張ります。

今日は今までお話ししたことのないことを少し話そうかと思います。それは今から80年前の出来事についてのお話です。皆さん80年前の8月15日に何があったか知っていますか。

今日は8月21日ですから、80年前の一週間くらい前の出来事ということになりますね。

日本は80年くらい前までは何回か色々な国を相手に戦争をしていたんです。そして80年前の8月15日この日は、日本がいくつかの国を相手に太平洋の各地で戦った太平洋戦争に負けて戦争が終わった日なんです。日本はその日からずっと戦争をしないで今日まで来ています。

だから、当然皆さんは戦争のことについては知らないことばかりだと思います。校長先生も同じです。先生が生まれたのは戦争が終わって20年後でした。だから戦争はずっと昔のことだと思っていました。

実はこの夏休み先生は自分の家の近くで太平洋戦争に使うために爆弾を作っていたということを初めて教えてもらいました。その爆弾は、もし敵の国が上陸して先生の住んでいるところまで攻めてきた時、人が抱えて戦車に向かって飛び込んで戦車を破壊するためのものであった可能性があるとのことでした。そしてそれを作っていたのはみんな

なように学校で勉強をしていた子どもたちだったのだそうです。

実際はその爆弾は使われることはありませんでした。使う前に8月15日を迎え日本は戦争に負けたからです。実際に敵の国が上陸した場所があります。それは沖縄県です。その時の沖縄県の様子についてはときどきテレビで放送されます。それはそれはもう悲しく悲惨な状況でした。先生の住んでいたところももう少しのところでそうになっていたのだと思うと、ずっと昔のことだと思っていた戦争が急に近くのことと思われるようになりました。

皆さんが今暮らしている「あさひ」のこの場所からも80年前の太平洋戦争に兵隊としてたくさんの方が参加しています。そして戦争で143名の方が命を落とされました。皆さんのご家族や親せきの方もきっと亡くなられた方の中におられるのではないかと思います。そういうお話を聞いたことがあるかもしれません。戦争は決して私たちに関係のない昔の出来事ではないように思うのです。

特別攻撃の兵隊さん（特攻という言葉聞いたことがあるかもしれませんね）として戦争を体験し現在も生きておられるお年寄りの言葉をお伝えしてお話を終わりにします。

国を挙げての戦いになると個人（一人の意見）では断り切れない（戦争を止めることはできない）

多くの方が団結して声を上げれば何とかなるんでしょうね。大衆の発言が大事だと思うね。

この言葉は私たちに投げかけられているということを決して忘れてはならないと思います。私たちは決して無関心ではいけないと思います。何かをすぐにしなさいということではないのです。無関心でいることが一番いけないことなのです。この先もし戦争のことに触れる機会があったら「昔校長先生がこんな話をしていたな」と思いだしてくれたら嬉しいです。

～図書館に本を寄贈していただきました～

楽しそうな本をありがとうございます



夏休み中の19日（火）に教職員共済組合という先生方が保険などでお世話になっているところから子どもたちのためにということで図書館に本を寄贈していただきました。本代として5万円をいただき図書館の先生が20冊を選書して下さいました。当日は共済組合からお二人の担当の方が直接学校を訪ねて下さいました。校長室の机の上に購入した本を並べて贈呈式を行いました。題名を見ただけで読んでみたいと思う本ばかりで、子どもたちは喜ぶだろうと思いました。学童クラブに来ていた子どもたちも数名加わって贈呈式が行われました。この時期に「本って素

敵」という本との出会いがあることは子どもたちにとって一生の宝になります。子どもたちのために心を寄せて下さった皆様に心から感謝いたします。

～コールドが南信大会に出場しました～

ここまで本当に練習よく頑張りました

7月31日に駒ヶ根文化会館において合唱の南信大会が行われました。本校からコールドの皆さんが県大会出場を目指して参加しました。音楽の永井先生の指導のもこの日のために早朝から練習を重ねてきました。夏休みも学校で練習を重ねました。歌詞の内容をよく考えて歌詞に思いを込めて歌いあげられるように技術面だけではなく気持ちも大切にして練習をしてたと先生からうかがいました。

当日は私も会場で聞かせてもらいました。入れ替わりに各校が発表していく中、大人数の学校のステージは確かに迫力があります。一方少人数ではありましたが東小学校のステージからは一人ひとりの透き通った声をはっきりとホールに響いてきました。一人ひとりの表情から歌詞に自分の思いを乗せて歌っていることがよく伝わってきました。

「思いを観衆に伝えたい」という意思を感じる歌でした。そして何よりも「歌を楽しんでいる」引き込まれるステージでした。子どもたちは本当によく頑張りました。結果は銀賞で県大会への出場はかないませんでしたがこのまでの子どもたちの頑張りに拍手を送ります。そして心を込めて指導して下さいました永井先生と伴奏をしてくださった榎本さんに心から感謝の気持ちを送りたいと思います。